

つなぐ

さいちゅう
レター

2020年
7・8月号
vol.16

「無料低額診療事業」と「なでしこプラン」をご存じですか？

生活に困っている人々を医療で救うことが、「済生会」創立の原点。

私たちは命を支える医療と福祉を目指して、100年以上の歴史を紡いできました。

済生会は明治天皇の「済生勅語」に基づき1911年(明治44年)に設立されました。「済生勅語」とは、社会に増大した困窮者に無償で医療を行い、それによって生(いのち)を済(すく)おうというものでした。済生会は創立以来、「施薬救療による済生」の理念を現代に受け継ぎ、各地に診療所を設け、貧困所帯に無料の特別診療券を配布して受診を促したほか、巡回診療班を編成して困窮者の多い地区を回り診察・保健指導を行いました。第2次大戦後、済生会は社会福祉法人となり、設立当初の天皇のお志を忘れないため、「社会福祉法人恩賜財団済生会」を正式名称とし、現在、第6代総裁に秋篠宮皇嗣殿下を推戴しています。

今回のテーマにある「無料低額診療事業」とは、生活に困っている人々の医療費を所得に応じ無料または減額するという、社会福祉事業法(1952年(昭和27年)制定、現・社会福祉法)に定められた事業です。

「施薬救療による済生」と示された通り、この「無料低額診療事業」は済生会の根幹事業といえます。

Q A 無料低額診療事業の目的は？

病気やけがによって生計困難を来す恐れがある方、経済的理由により必要な医療を受けることができない方を対象に医療費の一部またはすべてを免除し、安心して医療を受けていただくための事業です。

Q A どのような方が対象になる可能性がありますか？

- ・生活保護基準に該当もしくはそれを若干上回る方
- ・市町村民税非課税世帯の方
- ・役所や福祉事務所からの特別診療券をお持ちの方
- ・長期療養、失業、その他経済的理由により診療費の支払いが困難な方

無料低額診療事業ではこれまでも数多くの救済支援を提供してきました。しかし、時代や社会の移り変わりに伴い、貧困の姿も変わってきました。ホームレス、刑務所等からの出所者、独居のご高齢者、障がい者、DV(ドメスティック・バイオレンス)被害者、母子家庭、在日外国人・・・このように医療・福祉サービスにアクセスしづらい困窮者へも対応するため、無料低額診療事業に加え立ち上げたのが、済生会独自の生活困窮者救済事業「なでしこプラン」です。

Q A 「無料低額診療」、「なでしこプラン」制度を利用するにはどうすればいいの？

まずは当院の患者支援センターの医療ソーシャルワーカーまでご連絡ください。面談にてご相談をお受けいたします。
※制度の申請規定により、すべてのご相談に応じられない場合もございますので、ご了承ください。

Q A 免除の範囲は？

- ・診療費(入院・外来)の自己負担額
- ・保険外診療のうち、当院で定めたもの(入院中の食事療養費)
- ・その他必要と認めるもの

私達は皆さまの命の伴走者としてこれからも寄り添っていきます。

お問い合わせ先

東京都済生会中央病院
患者支援センター 医療社会事業室

相談受付時間：月～金 午前9時～午後4時半
土 午前9時～正午(第2・第4土曜日は除く)

TEL：03-3451-8211(代表)

※全国済生会の「生活困窮者支援事業」のご紹介は、冊子「シリーズ済生会の力 第12集 いのちの最終ラインII」に詳しく掲載されています。ご要望は広報室まで。

秋篠宮家からの思わぬ贈り物

秋篠宮家の秋篠宮皇嗣殿下、悠仁親王、紀子妃殿下、眞子内親王、佳子内親王及び宮内庁の職員を含む10人の方々、市販のビニール袋を加工した手作りの医療用ガウン100着を、2020年5月15日、当院にご寄贈くださいました。

今回ご寄贈いただいた経緯は、総裁・秋篠宮皇嗣殿下、同妃殿下に済生会病院等の新型コロナウイルス感染症への対応状況をご説明するWeb会議が、済生会本部事務局で2020年5月11日に開かれたことに始まります。眞子、佳子両内親王殿下も別室のモニターで参加されました。その際、当院では医療用のガウンが不足しているため職員がごみ袋を加工してガウンを作って対応していることをご説明したところ、妃殿下からは作り方を教えてもらいたいとのご要望があり、作り方の図面と動画をメールで宮内庁にお送りしました。

その数日後の2020年5月15日、突然宮家からご連絡をいただき、100着のビニールガウンをお届けくださいました。宮内庁の男性職員が段ボール箱2箱を直接、当院にお届けくださったのですが、中には皆さまの手書きの応援メッセージが同梱されており、受け取った院長以下、職員一同、とても感激しました。その際、宮家の皆さまと職員の方々が、短時間でお作りになられたことを知りました。私たち職員全員、お心遣いに感謝し医療現場での大切な医療資源としてありがたく使わせていただくことにしました。



ご寄贈いただいたビニールガウン(上)と宮家の皆さまからの応援メッセージ(下)

「なでしこ基金」へのご寄付ありがとうございました。
心よりお礼申し上げます。

2020年4月～2020年5月

200万円…池内 裕視様

100万円…港区三田一丁目町会様、三原 弘志様

50万円…小寺 政明様

30万円…佐々木 元様

20万円…SMF(サポートメディカルフロントライン)
代表 堂園 凉子様

10万円…平出 隆彦様、森 昌植様

2万円…松井 幸博様

1万円…國吉 寛之様

寄贈・寄付のお礼

たくさんの企業、ボランティア団体、個人の皆さまから、
多くのご支援と心あたたまるメッセージをいただきました!

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が急速に広がっていった3月。当院でも感染拡大防止に向けて、あらゆる対策を講じて取り組んでいました。そんな中、多くの医療機関で医療資材の不足が生じ、連日ニュースで報道されました。当院でもあらゆる方法で呼びかけを行い、多くの企業・ボランティア団体・個人の方から医療資源や応援メッセージやサポートグッズを寄贈・寄付としていただきました。そしてご支援いただいた医療資源は、現在大切に使用させていただいております。皆さまからの応援に、とても励まされましたことを心よりお礼申し上げます。

